

5月

月間指導計画

1歳児



保育目標		適度な休息をとりながら、生活リズムを整えていく。			
子どもの姿		長期休み明けのため、登園を嫌がって泣いてしまう子どももいる。 家庭との生活リズムの違いから、食事中に眠くなってしまったり、午睡ができなかったりすることがある。 保育士の顔を見て手を伸ばしたり、一緒に遊ぼうとしたりする。			
年間区別		ねらい	環境・構成	予想される子どもの活動	配慮事項
養護	生命	個々の生活リズムを認めてもらいながら、少しずつ生活リズムが整うようにする。	活動中に眠くなってしまふ時には休息をとりながら、少しずつリズムを整えていく。	休み中の生活リズムと園のリズムの違いから戸惑いを見せる子どももいる。	休み中の生活について保護者から詳しく伺え、無理なくリズムを整えられるよう工夫する。
	情緒	気持ちを受け止めてもらい、安心して過ごせるようにする。	様々な玩具をそろえて、子どもが遊びたいと思える環境を作る。 子どもに合わせて適切な距離をとる。	好きな玩具を手にして遊ぼうとする。 保育士に玩具を手渡したりする。	子どもからの小さな働きかけに丁寧に対応する。 ひとり遊びをしているときには見守る。
教育	健康	適度な休息をとりながら、戸外で活発に遊ぶ。	安全に遊べるように遊具や環境のチェックを行わないようにする。	戸外では泣いていた子供も笑顔を見せるようになる。	子どもの様子をこまめに観察し、疲れが見られた時には適切な休息がとれるようにする。
	人間関係	保育者に気持ちを受け止めてもらうことで愛着関係を育む。	「よかったね」「かなしいね」など子どもの気持ちを受け止めることで、安定感を持てるようにする。	泣いたり、時には叩いたりしながら自分の気持ちを伝えようとする。	一対一でゆったりと丁寧にかかわる。
	環境	戸外に出て、新緑や虫などの自然に親しむ。	散歩コースを工夫して、様々な自然物と触れ合えるようにする。	保育者に誘われて、自然物に興味を示す。	保育者が自然の変化や面白さに気づきそれを子どもに伝えることで興味を集める。
	言語	安心して保育者に気持ちを伝えようとする。	子どもの言葉を繰り返したりして、伝わったことの喜びを味わえるようにする。	遊びの中で見たものを保育者に伝えようとする。	言葉にならない時は保育者が代弁することで、物や気持ちと言葉を結び付けられるようにしていく。
	表現	好きな玩具を使って、簡単な見立て遊びを楽しむ。	様々な素材を用意する。 お店、家など簡単な環境を設定し遊びが広がるようにする。	ごっこ遊びの中で積み木を食べ物にするなど、簡単な見立て遊びを楽しむ。 友達や保育者とのやり取りを楽しむ。	ひとりひとりの遊び方を認め、一緒に遊んでいく中で様々な表現の仕方を経験できるようにする。
食育	温かい雰囲気の中で楽しく食べる。	苦手なものは無理強ひせず、「美味しいね」などと声をかけながら様々な食材を食べられるようにする。	好きなものは完食できるが苦手なものは舌で押し出した手をつけようとする。	食べられた時に大きさにほめ、食べる意欲を育てていく。	
健康・安全		休み中の様子を保護者と共有し、疲れが見られたりいつもと違う様子があった場合にはその様子を観察し、場合によっては保護者に連絡する。 また、口に入れることも多いため、玩具等の消毒を徹底する。			
保護者支援		園に行きたくないや泣いたりなかなか保護者から離れられずにいる子どもの気持ちに寄り添い、園での様子を伝えることで安心して預けられるようにする。			